

国連軍縮会議、静岡市で開催

国連アジア太平洋平和軍縮センター政務官

かたら お はるか
荊尾 遙



【写真・左】国連軍縮会議 in 静岡の会場【中央】左から、アンゲラ・ケイン国連軍縮担当上級代表、田辺信宏静岡市長、佐々木敦朗広島市副市長【上】寄稿文を寄せてくれた UNRCPD の荊尾遙さん ©UNRCPD

2013年1月30日から2月1日にかけて、第24回国連軍縮会議が静岡市で開催されました。1989年以来日本で毎年開催されているこの国連軍縮会議は、国際社会が直面している安全保障と軍縮に関連した問題について率直な対話と意見交換を行うためのフォーラムです。

第24回国連軍縮会議のテーマは「平和で安全な未来の創造：喫緊の課題と解決策」。同テーマのもと、「人道上の問題と核兵器」、「非核兵器地帯」、「小型武器」、「原子力安全と核セキュリティ」、「核軍縮・不拡散体制の現状と課題」、「市民社会の役割」そして「軍縮・不拡散教育」の7つのセッションが行われ、専門家による忌憚のない活発な議論が行われました。また最終日には、特別セッション「世界学生平和会議」と題し、静岡市の高校生平和大使及び本セッションに向けて勉強会を重ねてきた大学生・留学生による平和と軍縮研究の発表が行われました。



今回は、3,000人以上のボランティアが関わった「平和の灯りプロジェクト」【写真上】をはじめ、静岡市をあげての会議関連イベントが多数行

われ、市内のどこへ行っても、この軍縮会議のことを市民が知っているという状況で、国連軍縮会議のホスト市としての市民の意識の高さを実感しました。軍縮問題は一般的になじみのない問題かも知れませんが、今回、静岡市で開催された国連軍縮会議には各セッションで、10倍を超える傍聴希望があったと聞いています。軍縮問題を一部の政策決定者のみならず、市民自らが自身の問題として捉えていることが伺えます。

今回の「国連軍縮会議 in 静岡」の特徴として、インターネットでの情報発信が挙げられます。実際に会議に参加できなくても、オンラインで会議を傍聴したり、国連広報センターとも連携したフェイスブックや静岡市の学生がレポートしたブログも作成され、一段と開かれた議論の場とすることができました。

一方で、情報があふれる中、「軍縮・不拡散教育」のセッションで提言がなされたように、軍縮の専門家と教育の専門家による

ナビゲーションの必要性も今後の課題です。

さて、国連アジア太平洋平和軍縮センター (UNRCPD) があるのはネパールのカトマンズです。皆さん、ネパールと言えばヒマラヤをイメージする方が多いかもしれませんが（実際、冬の天気の良い日には、ヒマラヤ山脈をオフィスからも見ることができます）。先日、広島・長崎のことを知っていますかと、ユニセフでボランティア経験もあり、日本にも関心のあるネパールの20代の若者に聞いたところ、知らないようで驚きました。しかし、30代以上のネパール人の中には、よく知っている人もいます。ネパールでは1996年から2006年までの間、内戦が続いていたため、その際、どのような教育の機会があったかによって、人々の意識は異なるようです。

今回の軍縮会議でも、教育の重要性が再確認されました。次回の国連軍縮会議25周年に向けて、どのような会議を行うことができるか、皆さんも引き続き、ご注目下さい。

国連アジア太平洋平和軍縮センターでは、国際的な軍縮・不拡散に関する条約、国際約束及び規範の完全実施のための普遍化の促進と実質的な支援の提供等様々な活動を行っています。また、一般市民の意識を高めるための平和・軍縮教育の促進及び軍縮に向けた国際的・地域的取組への支援を行っています。

http://www.unrcpd.org.np/disarmament_issues.html